

第146回 日商簿記検定試験 2級 工業簿記一 解説

模範解答・予想配点・解説等は、学校法人高橋学園が独自の見解によって作成しており、検定試験実施機関における本試験の解答並びに出題の意図を保証するものではありません。なお、予告なしにその内容を変更する場合がございます。ご理解いただいたうえで、ご利用ください。

第4問

1. 原料P購入時の仕訳

当工場は、材料勘定の受入記録を実際の購入単価により行っているとのことなので購入時に実際単価を用いて記帳する。また、資料より「材料勘定には原料Pに関する取引だけが記録されている」との指示があるので、材料勘定には、原料Pのみの金額が記載される。

$150 \text{ 円/㎡ (実際単価)} \times 2,800 \text{ ㎡ (購入量)} = 420,000 \text{ 円}$

2. 各勘定の記入

(1) 材料勘定

材料勘定の記入で注意すべき点は貸方の消費額の計算である。当工場は標準原価計算を採用しており、仕掛品の勘定記入方法についてはシングル・プランを採用している。したがって、材料勘定の貸方の消費額は標準消費額となる。よって、材料消費に係る価格差異および数量差異は材料勘定で認識されることになるのでその点に注意すること。

- ① 買掛金 420,000 円 (上記1より)
- ② 仕掛品 350,000 円 $\{140 \text{ 円/㎡ (標準単価)} \times 2,500 \text{ ㎡ (標準消費量)}\}$
 $\times 1,250 \text{ 個 (当月投入量)} \times 2 \text{ ㎡ (製品C1個あたり標準消費量)} = 2,500 \text{ ㎡}$
- ③ 価格差異 $(140 \text{ 円/㎡} - 150 \text{ 円/㎡}) \times 2,600 \text{ ㎡ (実際消費量)} = \triangle 26,000 \text{ 円 (不利差異)}$
- ④ 数量差異 $(2,500 \text{ ㎡} - 2,600 \text{ ㎡}) \times 140 \text{ 円/㎡} = \triangle 14,000 \text{ 円 (不利差異)}$
- ⑤ 月末有高 $150 \text{ 円/㎡} \times 200 \text{ ㎡} = 30,000 \text{ 円}$

(2) 仕掛品勘定

シングル・プランの場合には、仕掛品勘定の借方および貸方の金額はすべて標準額が記帳される。よって、仕掛品勘定では差異が認識されない点に注意する。

仕掛品-直接材料費		仕掛品-加工費	
月初有高 200個	当月完成 1,200個	月初有高 100個	当月完成 1,200個
当月投入量 1,250個	月末有高 250個	当月加工量 1,200個	月末有高 100個

- ① 材 料 350,000 円 (上記2より)
- ② 加工費 240 円/個 (製品C1個あたり加工費) $\times 1,200 \text{ 個 (当月加工量)} = 288,000 \text{ 円}$
- ③ 製 品 520 円/個 (製品C1個あたり標準製造原価) $\times 1,200 \text{ 個 (当月完成品)} = 624,000 \text{ 円}$
- ④ 月末仕掛品
 - (a) $280 \text{ 円/個} \times 250 \text{ 個 (仕掛品-直接材料費)} = 70,000 \text{ 円}$
 - (b) $240 \text{ 円/個} \times 100 \text{ 個 (仕掛品-加工費)} = 24,000 \text{ 円}$
 - (c) (a)+(b) = 94,000 円

第5問

単純総合原価計算の問題となる。仕掛品のBOX (生産データを図式化したもの。)をしっかりと作成すること。また、棚卸資産の原価按分の方法についても先入先出法のみであり、比較的容易と思われる。

1. 仕掛品勘定

正常仕損費の負担については、仕損の発生点が工程の終点であるから完成品のみに正常仕損費を負担させるものとし、月末仕掛品は正常仕損費を負担しない。

仕掛品-直接材料費			仕掛品-加工費		
月初仕掛品 400個	当月完成品 2,300個	5,819,000 円	月初仕掛品 200個	当月完成品 2,300個	9,430,000 円
当月投入量 2,600個 @2,400円 ^{※1}	正常仕損 100個 月末仕掛品 600個		当月加工量 2,500個 @3,900円 ^{※2}	正常仕損 100個 月末仕掛品 300個	
6,240,000 円		1,440,000 円	850,000 円		1,170,000 円
7,259,000 円		7,259,000 円	10,600,000 円		10,600,000 円

※1 @2,400 円 = 6,240,000 円 (当月直接材料費) $\div 2,600 \text{ 個 (当月投入量)}$

※2 @3,900 円 = 9,750,000 円 (当月加工費) $\div 2,500 \text{ 個 (当月加工量)}$

2. 製品勘定

製 品		
7,440,000 円	月初製品 1,200個	売上原価 3,500個
	当月完成品 2,300個	月末製品 700個
15,249,000 円		4,641,000 円
22,689,000 円		22,689,000 円

3. 総合原価計算表の各金額

(1) 直接材料費

月末仕掛品原価 @2,400 円/個 $\times 600 \text{ 個} = 1,440,000 \text{ 円}$
完成品総合原価 7,259,000 円 (仕掛品-直接材料費勘定借方合計)
 $- 1,440,000 \text{ 円 (月末仕掛品原価)} = 5,819,000 \text{ 円}$

(2) 加工費

月末仕掛品原価 @3,900 円/個 $\times 300 \text{ 個} = 1,170,000 \text{ 円}$
完成品総合原価 10,600,000 円 (仕掛品-加工費勘定借方合計)
 $- 1,170,000 \text{ 円 (月末仕掛品原価)} = 9,430,000 \text{ 円}$

4. 完成品単位原価及び当月の売上原価

(1) 完成品単位原価

① 完成品総合原価 5,819,000 円 (直接材料費) + 9,430,000 円 (加工費) = 15,249,000 円
② 完成品単位原価 $15,249,000 \text{ 円} \div 2,300 \text{ 個 (完成品数量)} = 6,630 \text{ 円/個}$

(2) 売上原価

① 月末製品原価 @6,630 円 (当月完成品単位原価) $\times 700 \text{ 個} = 4,641,000 \text{ 円}$
② 当月売上原価 22,689,000 円 (製品勘定借方合計) $- 4,641,000 \text{ 円} = 18,048,000 \text{ 円}$